

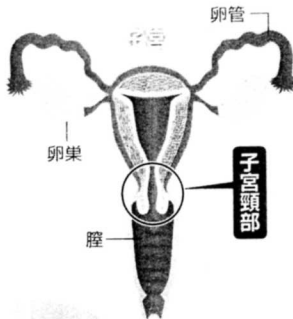
子宮頸がん

ワクチン・検診進む予防

発症のピークが30歳代と若い世代がかかりやすい子宮頸がん。原因となるウイルス感染を防ぐワクチンや、感染を調べる検査が開発され、予防が進んできた。

(中島久美子)

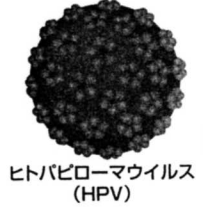
子宮頸がんは、性交渉で感染するヒトパピローマウイルス(HPV)が原因だ。多くは自然に体から排除されるが、まれに感染が続き、一部の人でがんを発症する。HPVは百種類ほどのタイプがある。子宮頸がんを引き



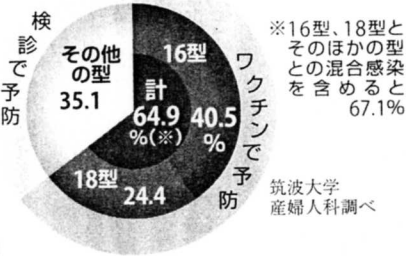
子宮頸がん予防

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染で起きる。2種類目のワクチンが今年発売された。ただし、ワクチンで防げるのは子宮頸がんの約7割で、予防には定期的な検診が重要だ

子宮頸がんの原因ウイルス



ヒトパピローマウイルス(HPV)

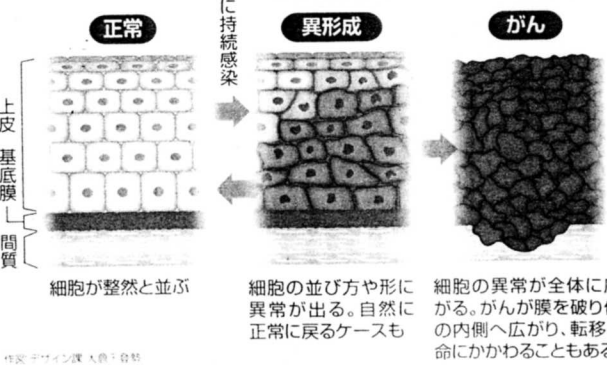


筑波大学産婦人科調べ

ワクチンの種類

商品名	サーバリックス	ガーダシル
開発時期	2007年5月	2006年6月
国内の販売	2009年12月	2011年8月
予防するHPVの型(対応する病気)	16型、18型(子宮頸がん、その前がん病変)	16型、18型(子宮頸がん、その前がん病変) 6型、11型(尖圭コンジローマなど)
対象者	10歳以上の女性	9歳以上の女性
接種回数	3回(初回、1か月後、6か月後)	3回(初回、2か月後、6か月後)
主な副反応(承認時の国内臨床試験結果)	注射部位 痛み 99% 赤み 88% 腫れ 79%	注射部位 痛み 83% 赤み 32% 腫れ 28%

子宮頸がんになるまで



作成: デザイン課 入替・自誌

起すのは十数種類で、高リスク型と呼ばれる。特に16型と18型は危険性が高く、子宮頸がん全体の約7割、20歳、30歳代の若い人では原因の8割を占める。HPVワクチンは2社の製品があり、日本では2009年12月に「サーバリックス」(グラクソ・スミスクライン社)、11年8月に「ガーダシル」(MSD社)の販売が始まった。3回に分けて筋肉内に注射する。自費だと、3回で5万円程度かかる。現在ほとんどの自治体で、中学1年生、高校1年生の女子を対象に、公費助成が行われている。双方とも、16型と18型に対する効果があり、子宮頸がん

の予防範囲は同じだ。主な違いは、ガーダシルは、6型、11型ウイルスの予防効果もある点だ。低リスク型のウイルスで、性感症である尖圭コンジローマを9割近く防げる。尖圭コンジローマは、性器や肛門の周りにイボを作る病気に塗る薬などで治療しても再発しやすい。国内では1年間で男女約3万9000人がかかるかと推定されている。また、サーバリックスは免疫を増強させる成分の働きが強いとされる。グラクソ・スミスクライン社などが欧米で行った比較試験では、サーバリックスの方が、16、18型の両方で、ウイルスを防ぐ抗体の量は多かった。ただし、注射

部位の痛みなど局所の副反応の頻度も高かった。ワクチンで、すべての子宮頸がんを防げるわけではない。重要なのは、定期的な検診だ。子宮頸部の表面の細胞をこすって取り、顕微鏡で調べる。がん細胞になる前の「異形成」の段階で見つかった場合、中等度までは自然に正常に戻る。高度の異形成なら、手術で子宮頸部の一部を切除する。妊娠・出産も可能だ。細胞の検査(細胞診)に加え、高リスク型ウイルス感染を調べる検査も導入されつつある。細胞診だけでなく、中等度から高度の異形成の発見率が高まる。

国の自治体検診の指針では、20歳以上の女性を対象に、2年に1回の細胞診を推奨している。感染検査は、人間ドックに加え、併用する自治体も増えている。ただし併用が死亡率を下げた効果を示すデータはまだなく、日本産婦人科医会は、暫定的な運用指針の策定を進めている。同会常務理事で自治医大産婦人科教授の鈴木光明さんによると、20歳代だとがん発症につながる一過性の感染の割合が高く、併用検診は30歳以上が望ましい。また、両方の検査が陰性なら、次の検診は3年後に延ばすことが可能だ。鈴木さんは、「異形成の状態で見逃すことや、検診間隔が延ばせる利点は大きい。子宮頸がん検診の重要性を多くの人に知ってほしい」と話している。

子宮頸がんワクチン比較表

作成:名古屋市医師会

項目		サーバリックス		ガーダシル		備考
含有内容		2価	HPV16 HPV18	4価	HPV6 HPV11 HPV16 HPV18	インジローマ関連ウイルス > > 頸がん関連ウイルス
適応(右の予防)		・子宮頸がん、その前駆疾患		・子宮頸がん、その前駆疾患 ・外陰上皮内腫瘍 ・腔上皮内腫瘍 ・尖形コンジローマ ←		
接種スケジュール		初回・1ヶ月後・6ヶ月後		初回・2ヶ月後・6ヶ月後		
接種費用助成事業対象者		中学校1年生～高校1年生の女子 (救済措置により、平成23年度のみ高校2年生の女子も対象)				名古屋市
接種料金(平成23年度)						
自己負担金		無料				
⇒ ⇒ 血中抗体価	HPV16	31,715GMT(3.7倍)		8.682GMT		GSK資料より GMT: geometric mean antibody titer
	HPV18	13,732GMT(7.3倍)		1.886GMT		
	HPV16	3.7倍		1.0倍		MSD資料より
	HPV18	3.7倍		1.0倍		
	HPV6	—		○		
HPV11	—		○			
発症予防効果		双方に差はない ?				厚労省Q&A
		・抗体価と予防効果の相関性は確認されておらず、感染防御最低抗体値も不明である				アメリカCDC
		・臨床試験で示されている予防効果が高いため、感染防御最低抗体値を確定できない。				
⇒ 副作用		疼痛	99.0%	82.7%	GSK、MSD資料より	
		発赤	88.2%	32.6%		
		腫脹	78.8%	28.3%		
予定供給量		年間	約640万本 (2011.4~2012.3)	約210万本 (2011.9~2012.3)	2012年3月までの 予定供給量	
		月間	約53万本~70万本	約30万本 (2012年1月から60万予定)		
発売会社		グラクソ・スミスクライン(GSK)		MSD		
カスタマーケアセンター		0120-		0120- (0120-		

HPVワクチンの比較

- ※ 子宮頸癌の原因であるパピローマウイルスに対するワクチンである。
- ※ 両者ともまだ約7年の実績しかない。
- ※ この約7年では、両者の子宮頸癌に対する効果には差がない。
- ※ 20年以上は効果が得られる予想だが、長期的な効果は確認されていない。
- ※ パピローマウイルスには100種類以上あり、子宮頸癌の原因になりやすいのは16型と18型。
- ※ 子宮頸癌は毎年約10,000人が新たに発症し、約3,000人が亡くなっている。
- ※ 途中で変更することはできない。

ワクチン名(会社)	サーバリックス(GSK)	ガーダシル(Merck)
接種スケジュール(3回)	初回 初回後1か月 初回後6か月	初回 初回後2か月 初回後6か月
効果(有効な型)		
子宮癌 (公式)	16型・18型	16型・18型
子宮癌 (非公式)	31型・33型・45型にも効果あり	
尖圭コンジローマ・外陰癌		6型・11型
特徴	非公式ではあるが、5つの型に効果があり(異論もあり)とされ、子宮頸癌の8割以上をカバーする。(20~30歳代では約90%をカバーする)	尖圭コンジローマや外陰癌にも効果がある。
	現状では効果に差がないが、接種後の抗体価が高いため、より長期間効く可能性はある。しかし現時点で長期成績は未確認。	外陰癌は年間数百人が発症。尖圭コンジローマは年間の発症数は不明だが、全国に患者が約4万人いると言われている。
結局は一長一短	毎年発症する子宮頸癌1万人中、8千人以上をカバーする。子宮頸癌への効果のみを考えるとサーバリックスの方が有利である可能性がある。	毎年発症する子宮頸癌1万人中、6~7千人と数百人の外陰癌、多くの尖圭コンジローマをカバーする。子宮頸癌以外の尖圭コンジローマや外陰癌への効果も期待するとガーダシルの方が有利である。(男性パートナーが多い場合など)

H23年12月現在